

ウィズコロナ・ポストコロナ社会に向けた国の動向

デジタル化の急速な進展やニューノーマルに対応した都市政策のあり方検討会（中間とりまとめ）（R3.4）

出典：https://www.mlit.go.jp/toshi/machi/toshi_daisei_tk_000062.html

デジタル化の急速な進展やニューノーマルに対応した都市政策のあり方

新型コロナ危機を契機に生じた変化

- 新型コロナ危機を契機とし、デジタル化の進展も相まって、テレワークの急速な普及、自宅周辺での活動時間の増加等、人々の生活様式は大きく変化（ニューノーマル）。

【全国の雇用型テレワーカーの割合の推移】

年	2016	2017	2018	2019	2020
割合(%)	16.9	18.3	20.5	18.8	34.1

これに伴い、ワークライフバランスの重視など、「働き方」や「暮らし方」に対する意識や価値観が変化・多様化。

- 「働く」「暮らす」場である都市に対するニーズも変化・多様化。職住遊学の融合、自宅以外のワークプレイス、ゆとりある屋外空間の構築などが求められるように。

⇒二地域居住をはじめ、人々のライフスタイルに応じた多様な働き方・暮らし方の選択肢を提供していくことが必要

めざすべきまちづくりの方向性

市民一人ひとりの多様なニーズに的確に応える
(人間中心・市民目線のまちづくりの深化)

ニーズに対応して機敏かつ柔軟に施策を実施
(機動的なまちづくりの実現)

地域の資源として存在する官民の既存ストック(都市アセット)を
最大限に利活用し、市民のニーズに応えていく

都市アセットを
「使う」「活かす」

- 職住遊学の融合など、官民の都市アセットの一体的利活用による空間づくり
- 空き家をコワーキングスペースにするなど、都市アセットのリノベーション
- 街路⇄オープンスペースなど、都市アセットを可変的・柔軟に利活用

スピーディーに「動く」

- 公・民・学の多様な関係者が連携して、まちのビジョンを共有
- 公園などまちなかでの社会実験の実施

デジタル技術・データを
「使いこなす」

- データを活用したシミュレーションや効果検証、デジタル技術による新たなサービス

めざすべきまちづくりの方向性に向けた取組イメージ

都市アセットのポテンシャルを引き出す空間づくり



左：
ウォークアブル空間創
出のための街路空間
の再整備(松山市)

右：
多様な人々のにぎわい
を生むための駅前広場
の整備(天理市)

使われていない土地や限られた空間の有効活用

左：
土地区画整理事業で集
約した空店舗等の敷地
の活用(彦根市)

右：
立体空間を活用した
緑・オープンスペー
スの創出(目黒区)



公共空間の可変的・柔軟な利活用



左：
街路空間における
オープンテラスに
よる活用(沼津市)

右：
災害時の公園での避難者
への給水(熊本市)

左：
空き地を暫定利用
した広場化の社会
実験(福山市)

右：
自動運転技術を活用
した公園での社会実
験(奈良市)



まちなかでの社会実験

デジタル技術を活用した都市サービスの提供



左：
顔認証受付・
決済で手ぶら
観光

中：
混雑情報・防
災情報等まち
の情報のリア
ルタイム発信

右：
誰もがスム
ーズに自由
に動けるモ
ビリティ

左：
3D都市モデル
の整備・活用

右：
地域の官民共有
のルールづくり



データの整備・共有に向けたルールづくり